

「青春日記」 当時の日記より

杉本錦治

<1年生>

1952年3月20日(木)

雨のちくもり

27日から合宿だ。参加するのは何人ぐらいだろう。コーチを招いての合宿となるが参加者が少なければコーチも張り合いはないだろう。

柳川君がこの頃練習がきついとぼやいていた。練習のきついのを乗り越えてこそ実力がつくのだと言ってやった。そしたら頷いていた。

3月25日(火)

晴

朝から小田高に行く。部室を片づけたり薪を運んだりした。ずいぶん疲れた。明日はフトンを運ぶ予定だ。疲れを残したら合宿がきつくなるだろう。コーチが来るというがしつかりやろうと思った。

4月4日(金)

晴

泣いても笑っても合宿はあと半日だ。もうすぐ終わりかと思うとやや気が緩んできた。午後から清光園に行き風呂に入ったが、いつまでも居たいと思った。卒業まで合宿はあと3回だ。

<2年生>

4月20日(日)

くもり

いよいよ公式戦である。今まで培ってきたものを出し切ろうと朝からはりきる。グラウンドに出ると胸がドキドキした。ゲームではずいぶん頑張ったつもりだが、自分は得点出来なかった。それでも2-0で勝った。

5月4日(日)

晴

いよいよ決勝である。鎌倉はツブ揃いだからちょっと怖い思いだ。まだ肉離れが治っていないので出るのは諦めた。ゲームは1-0で勝ったが危ないゲームだった。ゲームを見ていると足がムズムズしてふるえた。明日は小田高で外国人と試合がある。

5月20日(火)

晴れのちくもり

学校でプールを作るそうだ。水泳

は大好きだが、サッカー選手には筋肉の使い方の違いや、体を冷やすことで不向きだと先輩にいわれたが、本当だろうか。戸田先生にでも聞いてみよう。でも、練習の終わった後プールに飛び込んだらさぞ壮快だろう。

9月11日(木)

くもり

今日「アロハ」で窪先生、栢沼先輩からいろいろな話を聞いた。自分がキャプテンになった際の心構えの事だった。「伝統ある小田高サッカー部のキャプテンは大任だ。自分がこうだと思ったことをやり遂げる自覚と強い信念を持つこと。部生活の中で部員との意見の違いが生じることもあるが、部全体のこと、伝統のこと、先輩のこと、学校のことを考えて事を進めて行くこと、皆をもり立てて行くには、個を無にすることも求められるのだ。それには良き人格者になることだ」と教えられた。大変なことだ。今日は頭が混乱しているので早く寝ることにしよう。

11月4日(日)

晴れのち雨

今日は午後から大雨だったが練習をやり通した。不満顔をして練習に参加していた部員もいたが雨の日でも風の強い時でも黙々と練習している学校もあるだろう。県下や関東で良い成績を残すには人一倍練習しなければならないのだ。今自分たちは、神奈川県レベルの練習をしているとしか思えない。もっと高いレベルで目標に練習に励もう。今のままでは全国大会出場は無理だ。

11月17日(月)

雨のち晴れ

全国大会予選が始まっている。小田高は、相手が格下だと相手のレベルに合わせてしまっても苦戦する。戸田先生からいつも言われる。「試合前から相手を飲み込んでしまおうぐらいの気迫が欲しい」と。

精神面で強くならないと苦戦するだろう。

12月6日(土)

晴

今日は全国大会関東予選である。水、木、金の3日間、早稲田の伯井さんがコーチに見えた。戸田先生が、

「短期間で早稲田式の練習をしてもあまり効果が無いだろう。それよりも試合の場面場面で攻め方、守り方を変えていった方が良い」と言われた。8時30分に小田原駅を出発するが。皆が駅に激励に来てくれた。浦和のグラウンドでユニフォームに着替えた。何とも壮快な気分だ。自分はサッカーをやってきて本当に幸せ者だ。試合は本当にきつかった。抽選で借しくも敗退したが、「この悔しさを何時までも持ち続けて、来年こそがんばれ」と戸田先生から強く言われた。駅頭で激励してくれた皆の顔が浮かんできたが、この悔しさをこれからの練習につないでいこう!

<3年生>

1953年12月24日(木)

AM2:30

今夜、窪先生から電話があり「サンワ」に呼ばれた。コーヒーとゲーキをご馳走になった。俺の部生活もあと10日あまり。高校3年間の部生活が今度の正月の全国大会で終わりとなるが、まだまだサッカー部の一員として仲間と共に苦しみ、そしてもっと楽しみたいと思う気持ちが交差してなんともホロ苦い気持ちである。長いようで本当に短い3年間であった。

楽しいことも沢山あったが、苦しいことの方が多かったような気がする。しかし、今思い出してみると楽しいことばかり頭に浮かんでくる。初めて希望ヶ丘高校との公式戦に出場し1点を入れた時、肉離れを起こして試合に出られなかった時の悔しさ、2年生の時、関東大会の本郷の旅館で何人かがひどい食中毒をおこし、試合に出られず旅館で唸っていたこと、全国大会南関東予選で浦和西に抽選負けの無念さ、葦崎遠征の思い出、自分がキャプテンになって、原田と多喜が部を辞めると言ってきたときのつらさ、瀬戸のシュートはいつもバー越えて「サイドキックでいいから低く打て」と毎回しつこく注意したこと、県大会で優勝し関東